



わらべ

令和元年 7月12日

富岡保育園



雨が欲しいと思っている時には雨は降ってくれず、降りだしたら途端に豪雨のところもあり、自然はやっぱり人間の思うようにはいかないものだと、しっかり味あわされている今期の梅雨模様です。

でも子ども達は元気、元気！昨日（7月11日）の年長さんのサッカー教室でも、あの広いコミセンの体育館を隅から隅まで走り回っても音をあげる子はひとりもおらず、コーチが「今日は時間だからもう終わり」と告げると、「ええ〜！」のブーイング。「じゃあ、あと1回だけ試合をします」といって頂き、男の子は3回も試合をしていました。今年もコーチから「ここの保育園の子は、元気ですね。エネルギーがいっぱい」と言って頂きました。

職員も子ども達に負けてはいられません。保護者の皆様のご協力があり、6月29日は職員研修会を開き、「子どもの言葉にならない思いにどう気付くか」について研修しました。子育てに悩むのは保護者の皆様だけではないのです。子どもに禁止語ばかりをかけたたり、頭ごなしに叱りつけたりしない大人になるよう、保育者も日々葛藤と反省と後悔と懺悔を繰り返しているのです。すくすく園の亀子先生からいいお話を伺うことができました。1回だけでは身につかない私たちです。これから何回か続けて研修できるよう計画していきますので、ご家庭の皆様にはご迷惑をおかけすることと存じますが、よろしくご協力ください。お願いいたします。

また保護者の方にも頑張ってください、7月6日の午後1時30分から2時半までの1時間、「親の学びプログラム」にご参加頂きました。当日はWANIMAとアンパンにブッキングし、11人と参加数は少なかったのですが、天草教育事務所の山口先生の分かりやすい進行のおかげで、皆さん話の花が咲き、どの班もあと30分は話したかったと盛り上がっていました。今までクラス懇談会やパパママクッキングをして保護者の皆様のお友達作りのお手伝いや、子育てについての情報を流してきたつもりでしたが、なかなか参加者が増えず、保育園のほうも力が抜けてきたところでしたが、下記のような感想を頂き、力がまた湧いてきました。教育事務所にはまだまだたくさんのプログラムが用意されているようですので、今度はもっとたくさんの方が参加できる頃を見計らって再度計画したいと考えています。その時はどうか奮ってご参加ください。

今日から年長さんのお泊り保育です。例年通り今年も夜の保育園内に、子ども達の笑い声が満ちあふれることでしょう。私たちも楽しみです。

保護者の方の感想です。

- ・親の学びプログラムありがとうございました。“鳥の目、蟻の目、魚の目”。自分一人では大変な時があります。そんな時は“先生目の目”もお借りして、子どもたちを理解し、見つめていけたらと思いました。(Y.Fさん)
- ・あっという間の時間でしたが、初めは緊張してしまいました。でもアイスブレイクをして、気持ちがほぐれ楽しかったです。色々な角度から見れば、短所だと思っていたところも長所に繋がったり…ほめて育てるを目標に頑張ります。(T.Nさん)
- ・「学び」と聞くと嫌だなあと正直思いました。参加型のプログラムだったので、思っていた以上に楽しみながらとても良い時間を過ごせました。ありがとうございました。これからも積極的に参加しようと考えています。(M.Mさん)

7月の行事より

七夕交流会 7月3日(水)

7月3日(水)第2回ふれあい交流会が開催されました。前日から雨が続き、開催できるかどうか心配しましたが、朝8時半ころには「おはようございます！！」と次々においでくださいました。玄関でおばあちゃん方を迎えた子ども達も「おはようございます！！」と抱きついて歓迎していました。おばあちゃん方も「おはよう！！」とぎゅっと抱きしめて喜んで下さっているのを見て、「予定通り開催して良かったなあ」と思いました。20名のおじいちゃんおばあちゃんの参加でした。

初めに、富高先生が「たなばたさま」の大型絵本を読んでくれました。ページがめくられるたびに「おーっ！！」と言う歓声があがり、みんなとても喜んで聞いていました。次に、うさぎ組から年長さんまでお歌や楽器の演奏、ダンスなど披露してくれました。最後は「いきとしいけるもの」のダンスを参加者全員で踊り優しい風に包まれました。七夕会の後は、前回と同じく各クラスに入って触れ合って遊びました。

雨が心配だったのでいつもよりは早めに給食をいただき解散となりましたが、帰られる時も子どもたちが玄関で「さようなら」と何回も声を掛けると「名残惜しいです」と言って下さっていました。「毎回、保育園に来るのがとても楽しみです」と言って下さって有難いなあとと思います。足元の悪い中、おいで頂き本当にありがとうございました。



7・8月の行事予定

- 7月 3日(水) ふれあい交流会(七夕会)
7月 4日(木) 清水直子先生歌唱指導
7月 6日(土) 育児講座「親の学びプログラム」
7月9日、16日(火) リトミック
7月10日(水) お弁当の日
7月11日(木) 年長さん第2回サッカー教室
7月12・13日(金・土) 年長さんサマーキャンプ
7月17日(水) 岡田先生運動遊び
7月18日(木) 沖吉けい子先生童謡教室
7月19日(金) 慈恵園夏祭り 年長さん参加
保護者の会役員会 午後7時から「夏祭りの運営について」
8月 3日(土) 富岡保育園夏祭り・お弁当の日
夏祭り準備のため、午後の家庭保育にご協力ください。
8月13日～16日 お盆休み この間の保育希望を別紙にてとりますので、ご提出ください



9月28日(土)ふれあい運動会 会場:富岡小学校体育館

富保ファーム便り

保育園の畑には、夏野菜(オクラ・トウモロコシ・きゅうり・トマト・ピーマン・なす)が元気に育っています。玄関前にはゴーヤも順調につるを伸ばし、夏場のグリーンカーテンになってくれそうです。今収穫できるのは、キュウリです。6月11日に初めて採れたきゅうりは、仏様にお供えして立派な実りに感謝しました。その後も順調に収穫し、給食に使ってもらっています。ある時、年長さんは、収穫したきゅうりを、水洗いしてスティックにしてそのまま食べたそうです。いつもは野菜苦手な子もぱくぱく食べて「おかわり!!」の声にビックリと吉田先生が話して下さいました。自分達で苗を植えたとげとげのある新鮮なきゅうりの味は格別だったのでしょ。3月末に収穫したたまねぎは、6月末まで毎日のように給食で使うことが出来ました。いつも苗や肥料を提供して下さいさるJAれいほくさんには感謝です。ありがとうございます。

6月21日(金)には、年少・年中・年長さんで芋の苗を植えました。すぐには雨が降らずひん死の状態になっていたのどうなることかと思っていたところ、ようやくの梅雨入りで生き返りました。これから大きくなるのを見守りたいです。



育児情報

スマホに子守り、頼んで大丈夫?

スマートフォンを乳幼児の子どもに使わせる家族が増えている。情報発信技術(ICT)に早めに親しんでもらえるという賛成派の一方で、心身への悪影響があるのではという反対論も根強い。正解が見えにくい問題を今回は、反対の立場から日本小児科医会理事 内海裕美さんにききました。

心身への悪影響、軽く見すぎだ

日本社会は、スマホ、子ども、特に乳幼児にもたらす悪影響を軽く見すぎています。

企業は、アプリでかなや漢字を覚えたり、お絵かきもしたりできるなど便利さを宣伝しますが、実際に「子どもの学力が上がった」「幸福感が向上した」と言った研究データはあまり見たことがありません。

一方で、小中学生の視力は年々、悪化傾向にあり、昨年の調査では過去最悪でした。寝る時間が遅くなり、睡眠時間も短くなる傾向を示すデータもある。幼児どころか中学生までスマホはいらぬ、が私の持論です。

「スマホ中毒」の赤ちゃん出てくる

日本小児科医会は、2013年から「スマホに子守りをさせないで」と題するキャンペーンで、育児の現場で安易にスマホを使う事の危険性を訴え続けています。テレビやゲームも子どもの心身の成長に悪影響を及ぼしますが、スマホは次元が違います。親が知らないうちにスマホで勝手に遊んでいたという例は多い。いつでもどこでも与えるので、接する時間も長くなる。あたえられる情報量も膨大になります。

乳幼児期に限ったスマホの影響に関する臨床データはまだありません。しかし、子どもの成長に悪いことが起きていないだろうか、と言う警戒心が必要です。10年後に失敗と分かった場合、その結果は子どもたちが引き受けることになるからです。

親がスマホを与えるのは、むずかる赤ちゃんをあやしたり、家事で忙しかったりする時が多い。動画を見ていると喜ぶので、そのままにしてしまいがちです。赤ちゃんは一人ブルーライトを浴びながら、動画を見続ける。その結果、最近では、親にあやしてもらってもスマホをくれと泣き喚く「スマホ中毒」の赤ちゃんが出てくるなどの影響が出ています。

乳幼児期は子どもの土台を作る時期で、親子で時間をかけて接触を重ねることが大切です。親が接触したり、話しかけたりすることで、赤ちゃんは「この人は私の命を守ってくれる人なんだ」と信頼を寄せる。同時に「自分は世話をされるに値する人間なんだ」と感じられるようになります。

手間ひまかけて、寄り添いを

スマホが大人の「生活必需品」になった今、育児に一切使ってはいけないとは思いません。スケジュール帳に予防接種の予定を記録したり、蕁麻疹やけいれんなど子どもの病状を写真や動画で撮ったり、子どもを育てる生活の中で活用するにはいいと思います。ただ、育児の効率化が、親の都合による手抜きになっては困ります。乳幼児期に手間暇かけて時間をかけて誰かに寄り添ってもらうことは、子どもの人格形成に大きな影響を及ぼします。

子どもは、3～4歳までには1千～2千の言葉を覚えます。その過程では、五感を使った直接体験が必要になります。触ったり、なめたり、匂いをかいだり、親から聞いたり…。スマホは便利で一つの機器でたくさんことができる反面、この直接体験が貧弱になってしまう。言葉に遅れの有る乳幼児の親に「スマホを使うのをやめてみたら」と助言すると、活発にしゃべるようになった事例はあちこちの小児科で聴きます。スマホは赤ちゃんが寝てから使う等、メリハリをつけた使い方が大切だと思います。